

しみる、痛い…「歯肉退縮」再生治療や移植術が有効

今回は歯茎の問題について、ペリオインプラントセンター広島「高井歯科医院」の高井康博院長に伺いました。

Q よく歯茎が部分的に下がる場合がありますが、その原因は？

A 専門的には、歯茎が後退した状態を「歯肉退縮」と呼びます。症状は、冷たい水が染みたり、歯ブラシを当てると痛かったり、また前歯の場合

は審美的に問題が生じ、人前で笑うことにコンプレックスを感じる、というところにも発展します。

原因は①歯ブラシの力が強過ぎる②歯周病による歯槽骨の吸収③不良補綴(こ)物(かぶせ物の不具合)が原因④かみ合わせの不具合などが挙げられます。

①の場合はブラッシング力を調整することで自然治癒が見込めます。②の場合は前回お話しした「再生治療」を行います。歯槽骨には問題がないけれど、ほかの理由で自然治癒が見込めない場合は「結合組織移植術」という外科的治療が必要です。これは、上顎(が)の内側の歯茎を一部採取し、



高井康博先生
ペリオインプラントセンター広島「高井歯科医院」院長
日本臨床歯周病学会認定医、J-IADSペリオインプラント講師、3Dインプラント公認講師



左は、糸切り歯に大きな歯肉退縮が見られる術前の状態。右は術後。結合組織移植により、歯がしみなくなりました

左の歯には、歯肉退縮と不良補綴物が認められます。手術後不良補綴物も再製し、審美性を回復させました(写真右)

歯茎が下がった部分に移植する手術です。これにより、将来にわたって退縮しにくい健全な歯茎を得ることが可能になります。詳しくは専門医に相談を。